

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4270400817
法人名	有限会社 季節の花
事業所名	グループホーム いさはや
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市福田町1673番地8 (電 話) 0957-35-4011

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年6月9日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	13 人	常勤 8人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.1人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500~22,500 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	14 名	男性	2 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なかしまつねゆき内科循環器科・医療法人岡崎整形外科医院・なかむら歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部から少し離れた自然豊かな山間に山小屋風の温かな木の温もりを活かしながら、店舗つき住宅の間取り・広さも異なる部屋をそのまま活用し明り取りを作り、一部改築したり増築部分には段差やスロープ、安全を考慮し手摺りや階段昇降機が設置され、入居者は段差等を意識し生活リハビリの場にもなっている。大きな梁と吹き抜けになった高い天井、木の香りがするリビングに置かれたピアノ、暖炉や長い煙突の薪ストーブは山小屋風の室内に自然に調和しているが、火災に配慮し現在は使われていない。地域のつながりが深い土地柄で開設当初から、地域の清掃・寄り合い・炊き出し等に参加し交流に努めてきた。近隣の方から野菜を頂いたり、入居者が1人で外出された時に連絡や探して頂く等でご協力を頂いている。陽射しが降り注ぐ広い庭は季節の草花が咲き誇り、風に誘われて花の香りが漂い、片隅の菜園では芋や豆等の野菜作りを楽しみ、収穫した野菜が食卓を彩る日もある。入居者同士がお部屋でお茶の時間を過ごしたり、入居者と職員の明るい笑顔と笑い声が聞こえるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①理念を常に意識できるよう掲示・唱和し理念に照らし合わせて伝えている②個別・具体的な課題を記載し専門用語は分かり易い言葉に置き換え、現状に即した計画作成をしている③栄養士から食事療法の指導や献立チェックを受け栄養管理を行っている④緊急時に適切な対応ができるよう救命救急講習を受講し、定期的な内部研修や勤務調整を行い外部研修に参加している⑤暮らしぶり等についてホーム便りの郵送や手紙や電話等で報告している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長・管理者は自己評価について、いつも行っている事・自分のしている事をもっと良くしていく為に評価を受け、毎年良くなっていく事が出来ると伝えている。その都度勤務している職員が集まって、項目毎に意見を出し合い管理者がまとめた。前回評価結果に基づいて代表が説明し、改善点について全職員と一緒に話し合い計画書を作成し取り組みを続けている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 前回意見に基づき事業所が行なった事の報告や、取り上げて欲しい議題や次回の議題に関する事をお伝えし、改善していくべき点や情報を頂けるよう地域の方にお願ひしたり、家族の方を持ち回りで参加頂き、ご要望に対しホーム行事の掲示やホーム便りでお知らせしている。市の窓口をお訪ねしたり、事故報告等を定期的にファックス送信したり、入居者のターミナルケアや対応等について相談したり必要に応じた助言を頂いている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年に数回発行されるホーム便りや来訪時、電話で暮らしぶり等の報告をし、定期受診結果や健康状態に変化がある時は電話やファックスで随時報告したり、来訪間隔が遠い場合等は職員が一筆手紙に書き添え、個人毎の金銭出納帳・領収書を確認して頂金銭管理報告をしている。職員の異動時は行事の時やホーム便り等で紹介している。電話連絡の際や来訪時に「何かあったら何時でも言ってくださいね、困ったことや心配な事はありますか」と、繰り返しお尋ねし、頂いたご意見等は苦情届けに記録し対応策を職員と話し合っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 神社の花見や田祈禱祭りで鐘を撞いたり、町内運動会や初期消火の大会に職員が参加し、入居者と一緒に応援に行っている。三味線やカラオケ等のボランティアの演奏や、ホームの夏祭り・餅つきに地域や専門学校生のボランティアに来て頂き参加して頂いている。町内持ち回りの市の広報配布や町内会費・水道代の集金を入居者と共に行ったり、地域の寄り合いにホーム長が出席したり、お祭りや法事の時の公民館の炊き出しに参加したり、草むしりや空き缶拾い等に参加している。
	⑥	

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表・管理者は母親の認知症の発症や配偶者の両親が高齢化し介護をする中で、自分の親を看たいという思いでH.15.10ホーム設立に至った。地域性で地域住民のつながりが深く地域に溶け込む事に努め、庭造りやケアの在り方等、職員が試行錯誤しながらH.17の外部評価をきっかけに、思いを一つにしていなければならないと考えた。職員が意見を出し合い“地域の集まりの中のホームとして”という思いを盛り込みホーム独自の理念を作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に代表が理念や込められている思いを伝え、常に目にする事が出来るよう玄関や事務室に掲示している。毎月のスタッフ会議でケアについてや気になる事、接し方等について理念に照らし合わせ、常に理念を意識してケアするよう指導はしているが、職員の理解の程度に差があり日々のサービス提供場面で、全職員が実践できているとは言えないと考えており、理念を意識して実践出来るよう申し送りの時に唱和を始めた所である。	○	ホームの中に一歩足を踏み入れた時に、理念を口にし常に意識できるよう唱和を継続し、理念が実践の中で活かされるよう、更なる取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社の花見や田祈禱祭りの鐘撞きや、町内運動会や初期消火の大会に職員が参加し、入居者と一緒に応援に行っている。ホームの夏祭り・餅つきや三味線・カラオケ等の演奏で、地域や専門学校生のボランティアに来て頂き参加して頂いている。町内持ち回りでする市の広報紙配布や町内会費・水道代の集金を入居者と共に行ったり、地域の寄り合いにホーム長が出席し、お祭りや法事の時の公民館の炊き出しに参加したり、草むしりや空き缶拾い等に参加している。	○	出来る範囲で道の掃除をしたり、散歩の際に空き缶やゴミ拾い等を日々の中で心掛けて行う事で、入居者に外出の目的が出来てくると考えられる。近くの保育園児の訪問等も、積極的な働き掛けを検討しており、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長・管理者は自己評価について、いつも行っている事・自分のしている事をもっと良くしていく為に評価を受け、毎年良くなっていく事が出来ると伝えている。その都度勤務している職員が集まって、項目毎に意見を出し合い管理者がまとめた。前回評価結果に基づいて代表が説明し、改善点について全職員と一緒に話し合い計画書を作成し取り組みを続けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、市職員に参加して頂き、前回意見に基づき事業所が行なった事の報告や、取り上げて欲しい議題や次回の議題に関する事をお伝えしている。改善していくべき点や情報を頂けるように個別に地域の方をお願いしたり、会議の場で言って頂けるよう働きかけている。家族会で推進会議について参加のお願いをし、持ち回りで参加頂き「誕生会に出席したいので何時あるのか知らせて欲しい」と、ご要望がありホーム行事を掲示したりホーム便りでお知らせすると共に、該当の方に電話でお知らせしている。	○	地域の方からもご意見を頂けるよう、参加者について話し合い定期開催に結び付けたいと考えている。議事録のご意見等を記名式で残す事でご意見の背景や、取り組み状況についても明確になり、ご意見が活発に出せる場作りにもつながっていくと考えられ、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新手続きの為にホーム長が市の窓口をお訪ねしたり、毎月の空室状況や入居者の介護度、事故報告等を定期的にファックス送信している。入居者のターミナルケアや健康状態の報告や伝達不足があり、ホームでの対応等について相談し市職員を交えて話し合ったり、必要に応じた助言を頂いている。	○	ホーム便り等を定期的に市窓口へ持ってお伺いする事で、ホームの活動内容等の情報提供につながっていくと考えられ、市との連携が強化されるよう今後の取り組みに期待したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に数回発行されるホーム便りで暮らしぶりをお伝えしたり、来訪時や電話で管理者がお話しており、管理者不在時は職員からお伝えできるように伝言している。定期受診結果や健康状態に変化がある時は電話やファックスで随時報告し、来訪間隔が遠い場合等は職員が一筆手紙に書き添えている。買物の回数によって差はあるが、来訪時に個人毎の金銭出納帳・領収書をお渡しし確認して頂いている。職員の異動時は行事の時やホーム便り等で紹介している。	○	“ホーム便り”の中でホーム内行事や生活状況等の写真を添える事を考えている。ホーム便りによって家族の方が目にされる機会の少ない日々の様子を、より詳しくお伝えする事や生活の記録としても残す事ができ、家族にとつての安心にもつながっていく。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・不満・苦情等を率直に言ってくれるよう電話連絡の際や、来訪時に「何かあったら何時でも言ってくださいね、困ったことや心配な事はありませんか」と、繰り返しお尋ねしたり、ホーム便りで問いかけをしている。行政の相談窓口や地区総代の方に外部相談先になって頂き、入居時に説明しホーム内にも掲示している。頂いたご意見等は苦情届けに記録し対応策を職員と話し合い、運営推進会議で報告し助言を頂く予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期受診や入浴日に合わせ短時間勤務の職員を増員したり、調理専門や週に3～4日夕食作り、朝食作り洗濯等を専門として夜勤補助業務に入る専門スタッフを配置している。一人夜勤になる時は入居者の状況に応じて、勤務延長や早朝勤務等その都度調整している。各ユニットの管理者が個人面談を行い悩みを聞いたり、忘年会やボーリング大会、行事後の打ち上げや飲み会等で職員の親睦を図っている。新入職員は業務に慣れる迄、管理者と同一勤務にし情報提供・指導を充分行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議や法人本社でケアの状況を見ながら、実情に応じて接遇等の内部研修を行ったり、認知症介護実践者研修に管理者・ホーム長が参加したり地域ケア大会や協議会主催の身体拘束や記録についての研修、栄養指導・口腔ケア・感染症・防災等の研修に職員が交替で全員参加できるようにし、資料を配布したり会議で伝達している。代表は職員個々に応じての研修についての考えがあり、ホーム内に各委員会を設置しており、関係の深い職員が酸化できるよう声かけしている。	○	個々の能力・個性・希望を踏まえ職員と話し合いながら、目標・方向性を明確にしていける事で自己研鑽にもつながっていくと考えられる。職員毎の育成計画を作成し、段階的に力をつけていけるような取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は諫早市グループホーム協議会評議員で、研修計画の立案等に積極的に関わり、近隣の3ホームで救命救急の実技研修の開催や事例検討等を行なっている。知人が勤めているホームで実習したり、研修会で知り合ったホームと見学等の行き来を通じ新たな気づきを発見したり、他のホーム長が渋柿を持ってきてくれたり電話やメールでの相談する等、同業者との交流・連携に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム長・管理者が入院先や自宅に会いに行ったり、入居前に本人・家族が見学や体験入居をされたり、顔馴染みの関係を作っている。入居後は出来るだけ家族に訪問して貰ったり、その日の気分によって自宅へ外泊したりホームで生活したり、繰り返しながら今の生活に馴染む迄に2年かかった事もある。家族の方から緊急入居のご希望が自宅訪問した際の状況で、包括支援センターに相談し専門医での診療を受けながら、入居ではなく在宅生活を勧め今も生活を継続されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえの時に「他に何かないね」等、役に立てる事があると思って頂けるように、以前していた事が出来る機会を意識して作り、料理の味付けや郷土料理・漬物の作り方を教えて頂いている。夫婦で入居の方がお互いに支え合っている姿を見て、他入居者の亡くなられた夫の話を一緒に聞かれており、皆のご主人のように感じられる。入浴介助で「気持ち良かった」と言われたり、休み明けの出勤時に「来なかったね」と言われ、待っていてくれると思うと、仕事を続けていてよかったと感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご意向を明確に表明されない方の表情等から思いを汲み取ったり、生活歴・生活習慣・趣味等から行動・表情の背景を推察したりしながら暮らし方へのご希望を把握するよう努めている。日頃は歩けない方が大きな物音がした時に突然外へ走り出し、職員も一緒に走りながら帰るよう促すと「お前は死ぬ気か」と、険しい表情をされ暫く外で過ごしたが後で戦時中の事を思い出されていたのだと知った。	○	行動や表情等ゆっくり時間をかけて見守り思いを把握すると共に、ケアの際に気付いた事等を職員で話し合いながら、入居者の思いに近づけるよう更なる取り組みに期待していきたい。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一部センター方式を使いアセスメントしており『その人らしく暮し続ける』為の、個別・具体的な課題は記載されているが、目標が介護者の視点だった『地域で暮らす』視点での支援内容は記載されているが、課題・目標に盛り込まれていない。専門用語を避け優しい表現で記載され入居者・家族のご意向や、ケアの中で気付いた事を個別に“気付きノート”に記録し計画に反映している。担当制で職員が計画原案を作成し、病気や感染症の対応について、ケアの留意点等の解らない事を医師に相談し助言を頂いている。	○	入居者の望む暮らしについて家族や入居者と話し合い、全入居者の個別・具体的な目標や『地域で暮らす』視点が、盛り込まれるよう更なる取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月毎に定期的な見直しを行い、入居者・ご家族のご要望・状態に変化が生じた場合は、設定した時期の前でも見直し計画の変更を行なっている。新たな気づきやご意見が出された場合も、計画に反映させる為に、臨機応変に見直し状態等に特に変化の見られない場合も、全入居者について月に1回程度は検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康状態で気になる時にかかりつけ病院の看護師に相談したり、入院時はお見舞いに伺ったり、情報交換しながら早期退院に結び付けている。通院介助や孫の結婚式へ入居者と一緒に参列したり、入居前から利用していた美容室・床屋や洋服を買いに行ったりしている。外泊時は薬や身の回り品の準備等の支援を行ない、地域の寄り合いに参加した時に「何かあったらどうぞ」と声かけし、介護や入居についてのご相談を受けている。	○	地域の方のご要望に応じ食事や入浴支援等、その時の状況により話し合いながら柔軟な対応をしたいと考えており、取り組みに期待していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしかかりつけ医や、納得と同意の上で協力医療機関で受療している。常に職員が通院介助を行い生活状況等を管理者が一筆書いたり、介護記録をコピーして持参し情報提供を行なっている。受診結果は変化があった場合は速やかに報告しているが、特に変化がない場合は来訪時などに報告している。受診結果が充分伝わらない時は管理者が、医師に電話で確認をして家族にお伝えしており、医師といつでも相談できる関係は出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の方針について経口摂取から静脈栄養になる等、医療処置が必要になった時には事業所での対応が難しい事を、新規の入居者・家族にはお伝えし、ご意向等の把握は出来ている。急変時の対応については全入居者・家族と話し合っているが、開設当初より入居されている方については、重度化した際に施設を移って頂く等の方針について、少しずつ説明している状況である。		今後、看取りについてのホームとしての方針や医療連携体制について等、検討して行きたいと考えており職員と話し合い、関係者全体の方針を統一し共有されることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が馴染まれている方言を使う事や、苗字ではなく「○さん」とお呼びする時もあるが、目上の方に対する尊敬の念を持って接している。排泄介助時に「ちょっと行きましょうか」と、自尊心・羞恥心に配慮しさりげない援助を行なっているが、時に「トイレは？」等と職員同士で声を掛け合っている事もあり、互いに注意しあっている。個人情報に触れる話を第三者しない事を始め、来訪者の耳に入らないようにする等、情報の漏洩防止に努めている。	○	常に入居者の自尊心・羞恥心に配慮した援助や声かけが出来るよう取り組んで生きたいと考えている。「○さん」とお呼びする時にも、家族等の気持ちに配慮したり尊厳を守る為にも、その必要性や理由について理解し家族と話し合いながら検討され、プライバシーの確保が徹底される事に期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人・家族のご希望により個別の日課があり、生活のリズムが取れるよう声かけや誘導を行っているが、無理強いせず趣味・生活習慣等を把握し、希望に合わせ買い物に行ったり日課等を好まれない時は、ゆっくりお聞きしお気持ちやペースを尊重したケアを心がけている。ご希望をあまり表現されない方が寝たきり・座りっぱなしにならないようドライブや散歩、レクリエーションにお誘いしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に応じて牛蒡そぎや茹の皮むき、テーブル拭きや食器拭き・食器の片付け、お茶入れ等をして頂いている。職員も夕食は一緒に食卓につき必要な介助を行いながら、楽しい雰囲気を作っているが、状況により入居者と食事が別になる事もある。ご近所から頂いた旬の野菜や菜園で取れた芋・豆・ねぎや、茹・ツワ等摘みにいった山菜を取り入れている。ドライブの時に外食したり食事が楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間・回数をおお程度決め、一方のユニットでは見守り程度～一部介助の方が多く毎日入浴される方もいる。体調に無理のない範囲で好みの湯加減や入っている時間、シャンプー・石鹸・入浴剤や希望時は順番を変えている。1人ずつの入浴や危険がない部分は職員も扉の外から様子を窺ったり、入浴を嫌がられる時は「ちよつと行きましようか」と声をかけ、脱衣所迄ご案内し気持ち良く入浴して頂いている。	○	入居者の「温泉に入りたい」と云うご希望があり、安全に入浴できる温泉等の情報収集をしている段階であり、今後実現に向けて取り組みたいと考えており、入浴を楽しんで頂く事が職員の喜びとなり、更なる支援につながっていく事を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者毎に生活歴・趣味・習慣等を活かせる役割を見つけており、昔話をしながらある程度の時間が着たら洗濯物を取り入れたり、亀・メダカの餌やりや庭掃除、コースター編みや裁縫、草むしり、洗濯物干し、食器拭きや漬物作り等入居者の活力を引き出す楽しみ事等を持って頂いている。業務が優先になって手を出し過ぎる為、入居者が出来る事をして頂いていない場面もあるが、家族から情報を得ながら得意な事を活かせるよう積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居前から習慣とされていた神社への散歩や景色の良い公園、何度か行って馴染みになった食料品・日用品の店への買い物、美容室・床屋等に日常的に外出している。外出を希望されない方も戸外で過ごして頂き、気分転換や五感刺激の機会を作っている。外出日や時間帯・行先等、入居者のご希望をお聞きし関心事等を踏まえて気持ちを察し、ご希望に添えない時は日を変える等対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	裏口を出て直ぐ崖になっており危険防止の為、普段は施錠しているが、玄関等は19:00～6:00迄の防犯上の施錠以外は、行っておらず自由に出入りできる。入居者の安全確認の為、職員同士で声を掛け合ったり、落ち着かなくなれる時間帯・傾向等を予め把握しており、見守りを強化したり、プライバシーの侵害・音による行動制限等に配慮しながら、居室入口に鈴をつけている方もいる。近所の方々に入居者が1人で外出された時に連絡や探しに行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	火災を想定した避難訓練を年に2回、入居者は参加されていないが、消防署・全職員と地域の方や家族に呼び掛け実施した。地域の方に災害時は消防団への連絡や消火活動、避難のお手伝い等の協力依頼をしている。職員が防火管理者講習を受講し、ホーム内で中心になって懐中電灯やロープ、水や乾パン、ティッシュ、手袋や救急セット、ロウソク等の備品を準備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みに合わせ肉や魚等の食材を変更したり、井物等はご飯にかけずに別皿に盛ったり、おやつは洋風・和風や飲み物の種類も選べるようにしている。入居者毎の食事量・水分量を記録し、カロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐ為、書籍や資料を参考にして献立を作成したり、研修員の講師の栄養士に相談や定期的な献立チェック、退院時に食事療法や疾患管理の指導を受けたり、会議で入居者に合わせて疾患についての勉強会を行なっている。定期的な体重測定や血液検査の結果より医師から助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな梁と吹き抜けの高い天井、リビングのピアノや現在は使われていない暖炉と長い煙突の薪ストーブが、室内に自然に調和し和やかな雰囲気になっている。庭へ通じる大きなガラス窓は開放感があり、庭に咲く季節の草花や菜園の眺めから四季の移ろいを感じることが出来る。時折草花の香りや食事の仕度の音や匂いが食欲を誘い、テレビの音量は大きすぎないように気を配り、いつの間にか消され静かな食事を楽しんでいる。定期的な換気や消臭剤が使用され快適な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談して絨毯を敷いたり、ダンス・和箏箏や姫鏡台、時計、アルバム、自筆の書の額装や経典等、馴染みの物を持って来て頂き使い易いように、自由に模様替えをして頂いている。簾をかけたり使い慣れた物を活かして、居室が馴染みの空間となり居心地良く過ごして頂けるよう支援を続けている。		